

為替週間展望 = ドル円は 105 円台を中心とするもみ合いか

[8 月 10 日からの 1 週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		8 月 3 日 ~ 8 月 7 日			
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	105.80	106.47(3)	105.30(6)	105.56	-0.27
ユーロ・ドル	1.1784	1.1916(6)	1.1696(3)	1.1843	+0.0065
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終 値	前週末比	終 値	前週末比	
日経平均株価	22,329.94	+619.94	日本10年債利回り	0.012	-0.008
ダウ平均株価	27,386.98	+958.66	米10年債利回り	0.536	+0.008
=====					

< 来週の主要経済統計等 >

- 10日 中国7月消費者物価指数、中国7月生産者物価指数
スイス7月雇用統計
- 11日 日本6月経常収支
英7月雇用統計
独8月ZEW景況感指数
米7月生産者物価指数
- 12日 NZ準備銀行(RBNZ)政策金利
英6月鉱工業生産指数、英6月製造業生産指数、英6月貿易収支
英第2四半期国内総生産(GDP)速報値
ユーロ圏6月鉱工業生産指数
米MBA住宅ローン申請件数
米7月消費者物価指数
米7月財政収支
- 13日 豪7月雇用統計
独7月消費者物価指数
米新規失業保険申請件数、米7月輸入価格指数
- 14日 中国7月鉱工業生産指数、中国7月小売売上高
スイス7月生産者・輸入価格
ユーロ圏6月貿易収支
ユーロ圏第2四半期国内総生産(GDP)改定値
カナダ6月製造業出荷
米7月小売売上高、米第2四半期非農業部門労働生産性指数
米7月鉱工業生産・設備稼働率
米8月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米連邦準備制度理事会(FRB)による緩和策の継続や潤沢なドル資金供給を背景にドル売りの動きが継続しており、円は買われやすい地合いとなっている。こうした中、ドル円は上値の重い展開が続くとした。

【ドル円は急速に反転するも106円台では上値重い】

7月28~29日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、ゼロ金利政策および量的緩和策を維持することを決めた。大規模な緩和策が当面は継続される見通しであり、米連邦準備制度理事会(FRB)による潤沢なドル資金の供給もあり、ドル売りの流れが継続して、7月31日には104円19銭までドル安円高が進行した。その後、ドル安円高が進行してきた反動や月末を迎えたことでポジション調整の動きなどから、ドル円はドル買い円売りの動きに傾き、106円05銭前後まで上昇した。

8月3日にはNYダウの上昇やナスダックの最高値更新などを好感して、ドル買い円売りの動きが継続して、ドル円は106円47銭まで上値を伸ばした。7月の米ISM製造業景況指数が54.2となり、大方の事前予想の53.6や前回の52.6を上回ったこともドル買い円売りの支援材料となった。

4日以降も米国株の堅調は続いたものの、ドル買い円売りの動きは一服した。4日以降、ドル円は106円で上値を抑えられやすくなっており、105円台でのみみあいも継続している。7日に7月の米雇用統計の発表を控えていることもあり、動きにくくなった。

米国株はハイテク株中心に堅調な動きを見せており、アップルやマイクロソフトは最高値圏にある。ワクチン開発への期待感が広がっている上、米国での追加経済対策に関しては、米共和党と民主党による協議は継続しており、両者の主張に溝はあるものの、最終的には合意に向かうとの見方も根強い。こうした点が堅調な株価を支えているとみられる。ただ、堅調な株価もドル売り円買いにはつながりにくくなっている。

ドル円は104円台前半まで売られた後に106円台半ばまで戻したものの、戻りの動きは限定的となっている。ユーロドルやポンドドルは上昇基調で推移しており、ドル全面安の流れは継続しているとみられる。もっともドル円は大きく崩れにくくなっており、105円台を中心とするみみあいも継続することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、104.00～106.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、11日に日本6月経常収支、米7月生産者物価指数、12日に米MBA住宅ローン申請件数、米7月消費者物価指数、米7月財政収支、13日に米新規失業保険申請件数、米7月輸入価格指数、14日に米7月小売売上高、米第2四半期非農業部門労働生産性指数、米7月鉱工業生産・設備稼働率、米8月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルは堅調な推移が継続か】

ユーロドルはユーロ買いドル売りの流れが継続しており、上昇基調で推移している。

1. 19ドル台にいったん乗せた後に1.17ドル割れまで修正安となる場面も見られた。ただ、21日移動平均線がサポートとなって、再び上昇に転じるなど堅調な動きを見せている。

2018年5月以来となる高値圏まで上昇しており、上値を迫る展開が期待できそうだ。8月10日の週には、独8月ZEW景況感指数、独7月消費者物価指数、ユーロ圏第2四半期国内総生産（GDP）改定値などの発表があり、予想から上振れするようなユーロドルの堅調地合いをサポートすることとなりそうだ。なお、テクニカル的な過熱感からの反動安には警戒しておきたい。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1750～1.2000ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、10日に中国7月消費者物価指数、中国7月生産者物価指数、スイス7月雇用統計、11日に英7月雇用統計、独8月ZEW景況感指数、12日にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、英6月鉱工業生産指数、英6月製造業生産指数、英6月貿易収支、英第2四半期国内総生産（GDP）速報値、ユーロ圏6月鉱工業生産指数、13日に豪7月雇用統計、独7月消費者物価指数、14日に中国7月鉱工業生産指数、中国7月小売売上高、スイス7月生産者・輸入価格、ユーロ圏6月貿易収支、ユーロ圏第2四半期国内総生産（GDP）改定値、カナダ6月製造業出荷などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

～ノルマ～

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。